

ノートの作り方を指導する

「東大合格生のノートはかならず美しい」を中心にして

北海道小樽桜陽高等学校

若 林 理一郎

生徒のノートを見ると・・・

- 考査や小テストの計算・記述説明
→ただの計算の羅列
(説明になっていない、**前後関係が???**)
- 数学が苦手な生徒のノート
→美しくない(**単色**である・取り方が**雑**)
- 道教委でも「**ノートの取り方**」**指導重視**の方針

(H23.1.17 北海道新聞)

「東大合格生のノートはかならず美しい」 という本

- 筆者－太田あや(フリーライター)
→大手企業で高校生の受験指導に携わる
- 「東大合格生」のノートは？
→「知識をまとめる力」や「スピード力」
を意識して書き、そのための訓練をする
(記述式の入試問題を常に意識)

「ノートを作る力」向上＝「学力」の向上
につながる？？？

記述力向上のための実践

- 通信「ノートで学力アップ」の発行
 - 「東大合格生のノート…」の紹介・解説
 - 「ノートを作る力」の理論的学習
 - 「ノートを作る」ためのノウハウの習得
- 板書の「フォーマット」の確立
 - 生徒が「ノートを作りやすい」板書の研究
 - 授業のフォーマット(テーマ・目的・定理等)
の確立による授業内容の明確化

生徒の「記述力」+教師の「指導力」→相乗効果

通信「ノートで学力アップ」とは？

- 「東大合格生のノート・・・」の紹介・解説
→「ノートを作る」ための7つのポイント

「どうだいのおと」

の解説とその具体例を通した「ノートを作る」ためのノウハウの説明

- およそ半年で11回発行
→「どうだいのおと」+「数学のノートの作り方」

「とっだいのおと」7つの法則

1. 「とにかかく文頭は揃える」
2. 「写す必要がなければコピー」
3. 「大胆に余白をとる」
4. 「インデックスを活用」
5. 「ノートは区切りが肝心」
6. 「オリジナルのフォーマットを持つ」
7. 「当然、丁寧に書いている」

取捨選択→自分に合う「ノートの作り方」の発見

法則1 「とにかく文頭は揃える」

- 「見出しのレベル」による

「番号」と「文頭位置」の統一

<公文書の例>

1 ○目○的	→ 大見出し①
○(1)_学習指導に・・・・・・・・	→ 中見出し①
○(2)_生徒指導に・・・・・・・・	→ 中見出し②
2 ○内○容	→ 大見出し②
○(1)_全体講演・・・・・・・・	→ 中見出し①
○○ア○演○題・・・・・・・・	→ 小見出し①
○○イ○講○師・・・・・・・・	→ 小見出し②
○(2)_・・・・・・・・	→ 中見出し②
3 ○日○時	→ 大見出し③
・・・・・・・・	

(注) ○は1文字分の空白、_は0.5字分の空白。

「見た目の美しさ」と「区別のしやすさ」

法則2 「写す必要がなければコピー」

- 問題部分や資料等のコピー・切り抜き利用
 - ノートを書く時間の効率化
 - ノートが参考書レベルの美しさ

2曲線 $y = x^2 + x - 1$ ……①, $y = x^2 - 9x + 24$ ……② が与えられている。
直線 l は曲線 ① の接線であり、かつ曲線 ② の接線でもある。

(1) 直線 l の方程式を求めよ。

(2) 直線 l と曲線 ① および ② によって囲まれた部分の面積を求めよ。

ノートに貼り付け



問題の切り抜き

2曲線 $y = x^2 + x - 1$ ……①, $y = x^2 - 9x + 24$ ……② が与えられている。
直線 l は曲線 ① の接線であり、かつ曲線 ② の接線でもある。

(1) 直線 l の方程式を求めよ。

(2) 直線 l と曲線 ① および ② によって囲まれた部分の面積を求めよ。

法則3 「大胆に余白をとる」

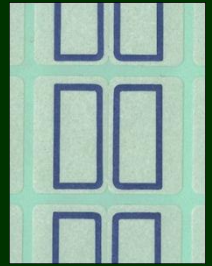
- ノートに**大胆な余白**
- **+ 解説・追加情報の書き込み**
 - ノートを見やすくする
 - 学習内容の**理解に深まり、納得**
(授業以上の広がりを持つ)
 - 自分に「**一番合う参考書**」=「**自分のノート**」



作業を通して「探究心」や「自己解決力」の育成

法則4 「インデックスを活用」

- ページに「見出し」「インデックスシール」
→必要な箇所をすぐに発見



「目次」「見出し」の働き

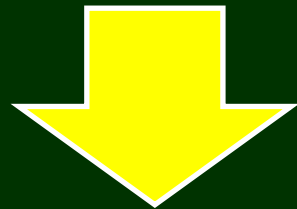
- ①調べたい内容がわかりやすい
- ②どんな内容を勉強するのかわかりやすい
- ③どんな順番で学習するのかわかりやすい



学習のしやすさ
(検索機能・内容把握・系統性)

法則5 「ノートは区切りが肝心」

- **1つの項目** → **1ページ、1見開き**で区切る
→ **全体像**を一目で把握・**体系的**に確認
- 収まりきらない → **ページをまたがない**工夫
(教科書や参考書も同じような作り)



学習のしやすさ
(内容・項目の全体把握・系統性)

法則6 「オリジナルのフォーマットを持つ」

- 自分のフォーマットを決める

→ 予習・授業中・追加メモかの確認作業が楽

「フォーマット」—どこに何を書くか決めておく



- どんな内容を勉強するのかわかりやすい
- どんな順番で学習するのかわかりやすい

+ α

「色ペン」の使い分け—「区別」「ポイント」の明確化

法則7 「当然、丁寧に書いている」

- 筆圧が一定、文字も同じテンション

→ 実際の試験を想定 — 「読みやすく書こう！」

自分も他人も「読みやすい」「使いやすい」



正答の導き方、自分の間違った原因がわかりやすい



時間内での情報の取捨選択
(情報活用能力と表現力の育成)

「数学ノートのポイント5」

1. 授業ノートと問題演習ノートを使い分ける
2. 授業ノートも問題演習ノートも余白が大切
3. 授業ノートでは 板書をしっかりと写す
4. 問題演習ノートでは 計算メモもきちんと書く
5. 間違えやすいポイントは 明確にしておく

「授業ノート」は、『参考書』
「問題演習ノート」は、『解答作成ノート』

「授業ノートづくり方」

- 構成—「**板書**」と「**余白**」。
- 大切なのは、それぞれ**中身を充実**させること

①板書部分—省略せずに書き込む。

②余白部分—(授業中)教師による解説
(自習中)自分で調べた知識
間違いやすいポイント

「問題演習ノートづくり方」

- 1ページにつき1~2問の分量、余白を多く

- 考査や入試を意識

→ 途中式を省かずに答えまでを書く

- 答え合わせのとき

→ 間違えたポイントは目立つように書く



どこでミスをしたかが明確にするため

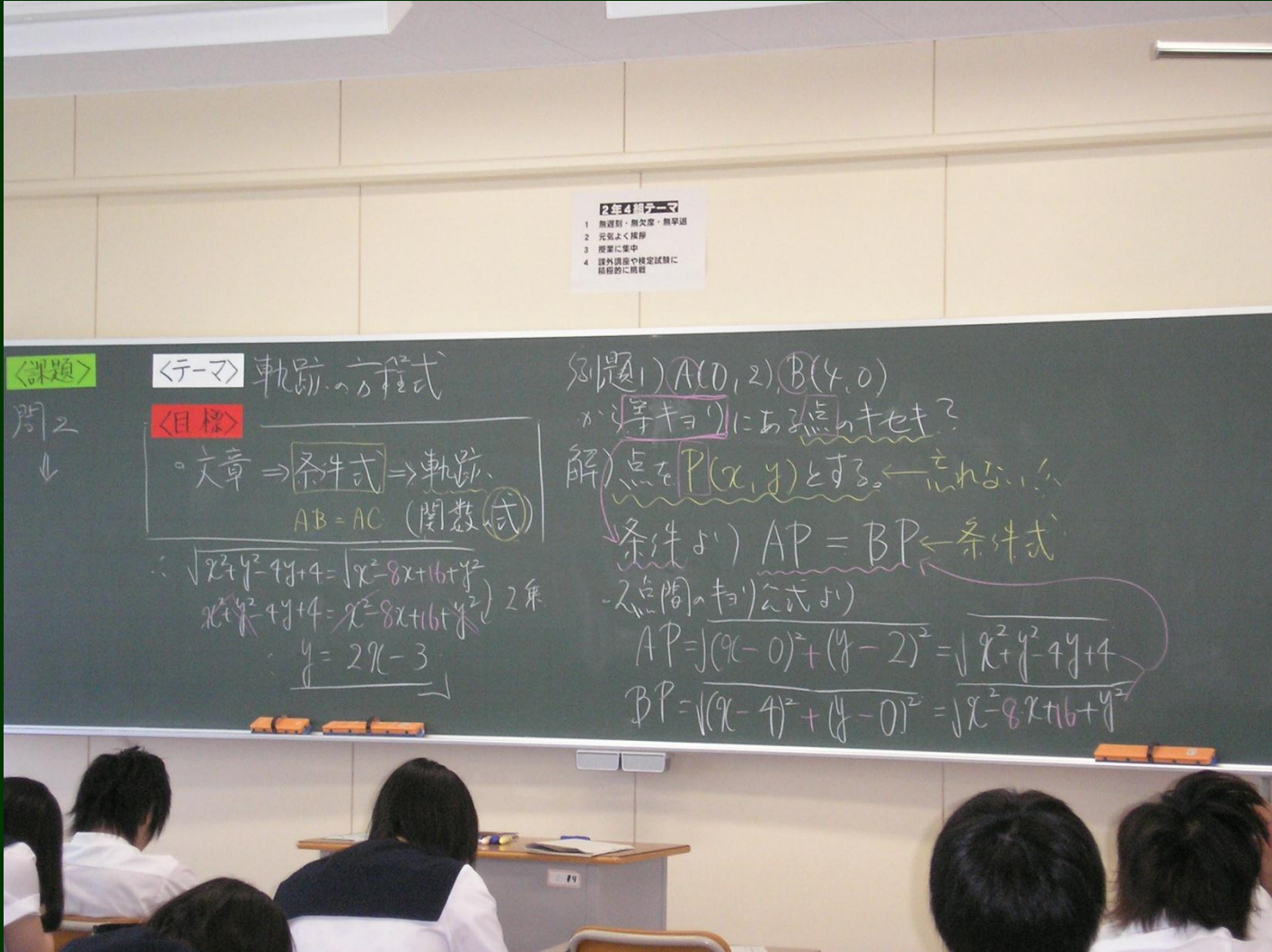
正確な情報・認識、正しい考え方・導き方

板書の「フォーマット」の確立①

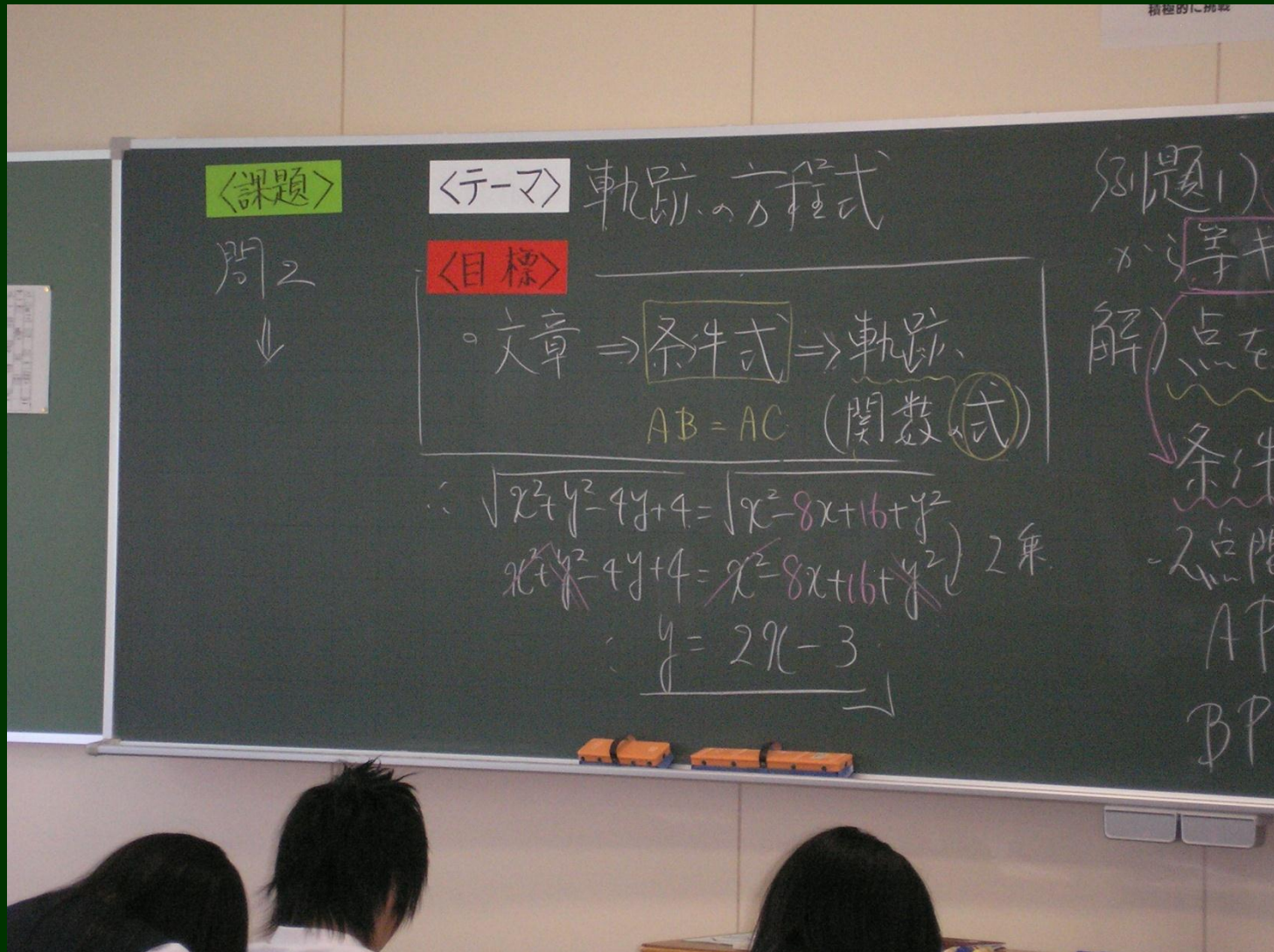
- 100円ショップのマグネット活用
→ 色チョーク以上のメリハリ
- 授業者も「フォーマット」を意識
→ 「テーマ」「目標」「公式」「課題」など、
どの板書が何を意味するものなのかを明確にする

正確な情報・認識、正しい考え方・導き方の
指導・援助

授業の様子①



授業の様子②



最後に

- 「ノートで学力アップ その②」の発行
- 生徒への指導－机間巡視等の活用
- 「ノートの取り方」－「到達度」の相関関係？

生徒が「できる」「わかる」こと



「学ぶ力」の向上、「充実感・達成感」の体得